

2007年受賞
信濃毎日新聞社
「民が立つ」

格差、人口減、財政難など地域を襲う閉そく感を解決するのは「お上(かみ)」ではなく「民(たみ)」だ一との視点から、問題提起と具体的提言を重ねた。

「地域住民の取り組みなどを多角的、立体的に取材し、現状報告から具体的な問題提起、提言を重ねている」「地方の自治、自立、民主主義という普遍的なテーマに住民の目線で迫った作品」ーなどとし、地域再生への道を具体的に提示した点などが評価された。

2009年受賞
熊本日日新聞社
「川辺川ダムは問う」

熊本県知事が2008年9月10日、建設発表から42年が経過した川辺川ダム計画を白紙撤回した。これを受け、公共事業の在り方を多角的に検証する連載を2008年12月22日より59回に渡り、同社が連載。

ダム計画に翻弄されてきた住民の苦悩、巨大公共事業がもたらした現実、国と地方の関係から住民参加の在り方まで幅広く検証し、将来の方向性をも提言した。

地域が直面した歴史的転換点を地元紙ならではの視点で伝え、地方分権と民意という全国共通するテーマを深く考察した点が高く評価された。

地方紙の魅力を語る。

新聞協会賞受賞の取材班記者たち

「全国紙と地方紙の違いは？」「地方紙の魅力って何？」「そんな疑問にお答えする本企画は、新聞協会賞を受賞した地方紙3社の協力の下、パネルディスカッション形式で実施します。新聞記者を志す学生は、全国紙だけでなく地方紙も視野に入れることで選択の幅が広がります。地方出身学生だけでなく、首都圏出身の学生も必見です。

2008年受賞
新潟日報社
「揺らぐ安全神話
柏崎刈羽原発」

2007年7月16日、新潟県中越地方沖を震源に巨大地震が発生した。地震によって東京電力柏崎刈羽原発で動いていた原子炉がすべて止まったが、被害やトラブルが続出。原発の安全神話が崩れ、地域住民の不安は募る。

世界最大の原発集積地で起きた非常事態は何を意味するのか。これらについて深く検証し、断層が走る地震国・日本の「原発」について考えていく連載企画。

日時:2010年10月20日(水) 13:00~14:20

会場:井深大記念ホール(中央図書館下)

対象:新聞業界、報道機関に興味のある就職活動中の早大生

※就職活動中でない低学年生も歓迎!

参加企業:信濃毎日新聞社・新潟日報社・熊本日日新聞社

主催:早稲田大学キャリアセンター
協力:信濃毎日新聞社